講談先生

坂口安吾

青空文庫

僕は天性模倣癖旺盛で、忽ち人の感化を受けてしまふ。だから、人の影響はのべつ受けてばかりゐて、数へあげればキリがない。けれども、この人には負けたくない、といふやうな敵意を持つ場合もあるもので、「この人の作品を読むと惹きこまれるから、もう読むまいと決心するやうなこともあつた。これが本当の影響を与へた人かも知れないが、かういふ本当の書斎の中へは他人を入れたくないから、僕は語らない。

僕は今書いてゐる歴史小説に、かなり多く「講談」から学んだ技法をとりいれてゐる。講談の技法を小説にとりいれたら、と考へたのは十年ぐらゐ昔からのことで、それは、フランス・写実派の技法が、僕の観念とどこかしら食ひ違ふところから、なんとなく心を惹かれ始めたのである。

写実、つまり、文字で描くといふことは、トリビヤリズムに堕し易く、思ふことの中心を逸することが多い。小説は元来「語る」べきもので、第一に、さう考へた。語るやうに書く、といふのは当然の話だけれども、僕の言ふのは別の意味で、「講談」のやうに、と言ふことだ。講談は語る人の性格があんまり出ない。フランス風の写実は、語り手の性格が出すぎて、事物の実体をくらまし易いと思つた。

近頃の例で言へば何々参謀談といふ作戦談のやうなものがそれで、あそこにも語る人の性格

は失はれ、事実そのものが物語るやうな力になつてゐる。

僕がこのことに具体的に気がついたのはスタンダールの小説を読んだときで、スタンダールが、いはゞ、外国的講談口調の語り手なのである。スタンダールは描写や説明といふことを、やらない。

日本の講談には語り手の性格がないやうに、語られてゐる人物にも性格がない。善玉悪玉の型があるばかりである。これは演者の教養や観点が固定してゐるからで、かういふ最悪の欠点は学ぶ必要がないけれども、然し、之を逆に言ふと、スタンダールも型だけしか書いてゐないのだ。

だが、スタンダールは常に創作し、進歩する。新らしい型が生れてゐる。之だけが講談と違ふ。尤も、これ一つ違ふだけで、月とスッポンの違ひになる。

講談それ自体は馬鹿らしいものだけれども、我々は、どこから何を学びとつても、値打には変りがない。

講談は自分が歴史を見てきたやうに語つてゐる。「まことに困つた奴でございます」とか「かう言ひながら蔭で赤い舌をペロリと出しました」などゝ実に心易いもので、私がちやんと見てきたのだから、文句は言はずに、信用しなさい、といふ立前(たてまえ)なのである。

小説の技法に大切なのは、事実性、説得力といふもので、之には色々の技術がある。或ひは作者の感傷に托して事実性を維持しようとしたり、こくめいな描写によつて実感を盛り上げよ

うとしたり、様々だ。各々、作者その人の身についた技法があるから、良し悪しは一概に言はれぬことで、自分の方法を身につけることが第一であらう。

僕が講談の方法を面白いと思つたのは、之又僕流の考へ方で、僕はそれで良いのだと思つてゐる。

講談の語り方、私が見てきたことだから信用しなさい、といふ語り方によると、第一、目が物の本質から離れず、小さなことに意を用ひる必要がないといふ、大変手数の省略があり、この省略は、手数を省くばかりでなく、テーマをはつきりさせる。

我々に必要なのは語り方ではなくて、何事を語つたか、といふことであるが、語り方がなければ、語られる物はなく、語り方が変れば、語られる物も変る。語つてゐるやうにしか考へられず、又、事物は在り得ない。小説の実在性といふものには、それだけの絶対性があるのである。

小説の技法などゝいふものは、言ひ現はし難いもので、自ら会得する以外に仕方がない。小説家は、常に小説の中で全てを語りつくすべきもので、僕が今、講談に就て語つたことも、意をつくしてはゐないし、又、つくさうとも思つてゐない。たゞ、講談の口調をやゝとりいれて小説を書いてゐるのは本当だが、講談といふものを特別意識してゐるわけでもないのである。たゞ、講談といふ言葉を一つとりあげたから、こんな風な文章になつたゞけの話である。この小説は、もう三ヶ月ぐらゐで出来上ります。

青空文庫情報

底本：「坂口安吾全集　03」筑摩書房
　1999（平成11）年3月20日初版第1刷発行
底本の親本：「現代文学　第六巻第三号」大観堂
　1943（昭和18）年2月28日発行
初出：「現代文学　第六巻第三号」大観堂
　1943（昭和18）年2月28日発行
※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ケ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。
入力：tatsuki
校正：noriko saito
2008年9月16日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

講談先生

坂口安吾

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/